

流行ニュース：

< 炭疽、アメリカ合衆国（最新版） >

米国疾病管理予防センター（CDC）は、10月23日11人の炭疽菌感染者が確認されたと報告した。罹患者はフロリダ2名、ニューヨーク3名、ニュージャージー2名、ワシントンDCの4名となった。このうちワシントンDCで最近報告された2名の死亡例も入っている。両症例は肺炭疽であったことが確認された。さらにもう1名の症例がニューヨーク市保健局によって報告された。CDCはこの12番目の症例について診断確定を行うため追加検査を予定している。CDCは炭疽菌感染を次のように定義している。（1）冒された組織や罹患部位から炭疽菌が検出され、細菌学的に確認された、皮膚疾患、呼吸器疾患、消化器疾患の症例、（2）少なくとも2種類の臨床検査テストで炭疽菌感染の根拠が示されている症例。

< 髄膜炎菌感染症、コンゴ民主共和国（最新版） >

10月16日現在、全部で378症例が報告され、ここには南Kivu州、Katana帯15地区の32例の死亡例（致死率8.46%）が含まれている。髄膜炎菌血清グループが臨床検査により確認され、選択的予防接種キャンペーンが感染地域で行われている。WHOは対象人口を拡げて30万単位のワクチンを追加提供している。

今週の話題

< 炭疽 >

炭疽はもともと草食動物の疾患であり、人間には感染動物や汚染された動物製品から直接的あるいは間接的に感染する。そのため家畜の管理は症例発生の減少の鍵となる。炭疽が今後動物や人間の健康に大きな損害を与える可能性もあり、WHOは「人間と動物における炭疽菌のサーベイランスと管理のためのガイドライン」を作成している。

この疾患はサハラ砂漠南部の地域やアジアの国々、南ヨーロッパの数カ国、アメリカ大陸の国々、オーストラリアに存在する。動物に関してはさらに多くの国々で発生している。

人間の炭疽には3型ある。切創や擦過傷から皮膚に孢子が入って感染する皮膚炭疽（全体の95%を占める）、汚染された動物の肉を摂取することから感染する腸炭疽、空気中に浮遊する炭疽菌の孢子を吸い込むことで感染する肺炭疽の3病型である。3型とも治療が遅れれば死に至る。

* 予防：予防の基礎は家畜の管理手段にある。感染後死亡した家畜の確実な処理方法は焼却することである。予防のためにはワクチン接種も行なわれる。ワクチンは人間にも適しているが、予防的使用は感染の可能性が高い職業や軍事に関する場合に限られるべきである。患者の隔離は必要ないが、着用物や他の汚染されたものは処理（できれば焼却）されるべきである。

* 治療：炭疽の発症前または発症直後直ちに用いられれば、抗生物質治療は動物、人間とも著効を示す。

* 動物の封じ込め：家畜が炭疽を発症した場合は、集団発生を避けるため直ちに隔離する。

< 伝染性媒介の恣意的使用 >

WHOは、アメリカ合衆国をはじめ、他国からも人間に危害を及ぼす生物媒介の恣意的使用について質問を受けている。最近の事件から3つの教訓が挙げられるだろう：（1）公衆衛生システムは恣意的使用による感染の疑いに迅速に対応してきた（2）これらのシステムの警戒体制を継続すべきである（3）公衆が説明を十分に受けて事態を把握し各自責任を果たすことがこのような事態において大変重要である。

炭疽は新しい疾患ではなく、迅速な診断があれば完全に治療可能な疾患であり、全世界の人々が炭疽菌の恣意的使用にどのように対処すべきかを正確に知る必要がある。炭疽菌の孢子に直接接しない限り、人は感染することはなく、他人から吸入性炭疽菌をもらう可能性もない。感染の不安のある人はまず医師に診察を受けるべきであり、自己判断で抗生物質を使用するべきではない。WHOは政府および国際機関と共同で状況調査を行い、定期的に最新の情報を提供する。

< ポリオを引き起こした輸入野生型ポリオウイルス、ブルガリア、2001年 >

2001年3月24日、Bourgasでワクチン接種を受けていない13カ月の女児が高熱のために入院し、両下肢麻痺を呈した。検査の結果、野生型のポリオウイルス1型が分離された。この確認に続いて、厚生省は小児ハイリスク集団の検診、過去の記録の調査、急性弛緩性麻痺（AFP）の監視強化、集団ワクチン接種を実施した。4月には26カ月の女児が、5月には3カ月の男児が発症した。

4月26日ポリオとは関係のない疾患でBourgasの病院に入院していた0～83ヶ月の小児26人のポリオウ

イルス抗体検査が行われた（表1）。

表1：ポリオウイルス抗体保有状況、Bourgas の病院に入院中の小児 26 人、月齢別、ブルガリア、2001 年

月齢	血清型3型全てに抗体がある	血清型1型に対してのみ抗体がある	抗体なし
0-2	0/7	1/7	6/7
3-5	1/3	0/3	2/3
6-23	7/11	2/11	2/11
24-35	1/1	0/1	0/1
36-83	1/4	1/4	2/4
合計	10/26	4/26	12/26

5月には追加の血清学的スクリーニングテストが曝露の可能性の高い地域やその周辺で生活する0～83ヶ月の45名の子供に行われた。ソフィア市では75%の子供の3血清タイプ全てに対する抗体が欠損していた。血清タイプ1型に対する抗体を持つ子供はいなかった。1998年から2000年のブルガリアのAFPサーベイランスでは15歳以下の人口10万人あたりの非ポリオ率は0.87であった。2001年最初の3ヶ月に2AFP症例がブルガリアで発生した。その後AFP症例は急増し、8月31日の時点で非ポリオAFP率は10万人あたり3.2症例になり、非ポリオ症例27例を含む30症例が確認された。

集団発生をコントロールするため、ハイリスクの小児の集団ワクチン接種キャンペーンがBourgas全域と隣接地区で行われ、10月から11月には0歳から4歳の小児を対象に追加のラウンドが計画されている。

* 編集ノート

この集団発生は、約10年間ポリオに汚染されていなかった国で数カ月以上にわたり野生型ポリオウイルスが伝播したことを示している。このケースではウイルスが出所不明の場所からブルガリアに運ばれ、免疫力の弱い層に発症した。ポリオがなくなっても、ワクチン接種率の低い地域人口では野生型ポリオウイルスの輸入や輸入後の伝播により罹患しやすい状態のままなのである。野生型ポリオウイルス1型の確認に伴い、WHOヨーロッパ地区事務所は直ちに全加盟国の当局にAFPサーベイランスを増やすこと、罹患しやすい層の人達への予防接種の達成率を早急に高めることを要求した。WHOは実施のための人材が十分でない国・地域には顧問使節団を派遣し、7月には14カ国・地域を対象にワークショップを開催した。またUNICEFや他の協力団体と臨時のワクチン提供とサーベイランスと地域活動を支持するために活動した。地方当局の迅速な介入により、最初の症例の麻痺発症から64日以内に全国ワクチン接種日の実施が可能になった。今回の事例は、流行地域からのポリオウイルス輸入に際し対応を準備している地域やポリオウイルス撲滅を証明しようとしている地域に、有益な例を提供した。輸入のリスクはポリオウイルスが世界的に根絶されるまで存続するであろう。

< 肺結核拡散防止国際計画 >

肺結核の感染者が国際的に増えている。HIV/AIDSや薬物耐性が合併した肺結核のために、2000年には死亡例は200万に上った。貧困層は特に罹患リスクにさらされており、アフガニスタンやパキスタンでは既に高い感染率を示している。肺結核拡散防止国際計画では、国際的に承認されている肺結核の治療方策であるDOTS（直接観察下治療）の採用国を増やすことを提案する。国際計画には例えば治療期間を短縮する新薬の調査と改良、HIV陽性肺結核症例のより効果的な治療戦略の開発など、多剤耐性結核菌の予防も含まれている。DOTSが厳密に応用されれば、世界全体で10人中9人の成功率を提供することになるが、肺結核患者のDOTS受診は近年でも依然として4人中1人に留まっている。現状のままでは、2005年の到達目標は2013年まで実現不可能であろう。

流行ニュースの続報：< インフルエンザ >

アルゼンチン（2001年10月20日）：亜型未分類のA型、A（H1N1）型、B型ウイルスがBuenos Aires、Chaco、Nuequen、Saltaといった各地に点在して発見された。チリ（2001年10月20日）：B型ウイルスが10月第3週に発見された。香港（2001年10月20日）：インフルエンザA（H1N1）、Bウイルスのインフルエンザの小発生が報告された。

（松田淳子、川又敏男、中園直樹）